

第3・4学年 算数科学習指導案

指導者 教諭 堀田 浩一

研究主題とのかかわり

学習素材の活用の仕方を工夫することで、課題を意識し、意欲をもって学習に取り組むことができるようにする。

1 単元名 3年 長方形と正方形 (本時 2/8)

2 単元設定の理由

3年生の児童(男子1名、女子2名)は、これまで、生活体験の中で三角や四角を表現してきている。また、前学年で三角形、四角形が直線で構成されること、辺の数などをそれぞれ学習しており、図形の向きや位置などに関わらず図形を認識する経験もしてきており、その学習を生かして学ぶことができると思われる。また、一人ひとりの算数科の学習に対して以下のような傾向がある。

A児	なんとか自分で考えてみようという姿がみられるようになってきた。具体物を使った課題に対しては自分なりに考えてみるができる。三角形と四角形の違いやその構成については理解している。
B児	自分のペースだけで物事を進めていく傾向が強い。他の人との意見の違いについても気付くようになってきた。図形については、その特徴を理解し、なかま分け等できる。
C児	課題に進んで取り組むことができるが、間違えることに強い抵抗がある。自分の考えをしっかりと表現することができる。図形については特徴をきちんと理解し、仲間分け等することができる。

本教材は、正方形、長方形、直角三角形を分解したり構成したりする活動を通して図形を分析的に考察していく力を身に付け、図形の内容をはっきりさせていくことをねらいとしている。また、重ねたり、描いたりといった操作活動が多く取り入れられる学習である。これは児童にとっても自分なりの意見や考えをもちやすく、その考えをもとに発表し、お互いの考えをつなぎあう活動にも発展していくことができる。さらに、図形の学習の導入の仕方を工夫することで、図形に対する関心・意欲が高まり、主体的な活動につながっていくと考える。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・児童が作った図形から導入することで、図形や学習に対する意欲の高まりへとつながるようにする。
- ・学習したことを図にまとめることで、図形同士の相関関係をとらえやすくさせるようにする。また、4年生の学習の結果とも関係付けることで、図形への興味や学習の広がりを感じられるようにする。
- ・長方形・正方形の学習の最後に、箱を作る活動を発展的に取り入れることで次の学習につながるようにする。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

- ・課題に対する理解度や学習進度に差はあるが、リーダーカードをもとに自分たちで学習を進めることができるようになってきたので、主体的な学びが進められるように適時助言する。
- ・発表を他の児童による操作活動で確認するなど一人ひとりの意見を大切にし、内容についても理解が深まるようにし、活発な意見交換につながるようにする。

3 目標

- 図形からそれぞれの「ちがひ」を見付けようと、気が付いたことを進んで発表する。
- 図形の構成要素(辺や頂点)に着目して長方形と正方形、直角三角形の特徴を考える。
- 長方形や正方形、直角三角形の構成、弁別ができ、簡単な作図ができる。
- 図形の構成要素(辺や頂点)に着目して、長方形と正方形、直角三角形の意味や基本的性質を理解する。

4 評価規準

関心・意欲・態度	・身の回りから直角や正方形、長方形の形をしたものを見つけようとする。
数学的な考え方	・図形を構成する要素に着目して、図形の特徴について考える。
表現・処理	・長方形や正方形、直角三角形の構成、弁別ができる。 ・方眼紙を使って長方形や正方形、直角三角形の簡単な作図ができる。
知識・理解	・辺、頂点、直角の意味を理解する。 ・長方形、正方形、直角三角形の性質を理解する。

5 指導計画および評価 (全8時間)

		学習活動・内容	評価の視点	教師の支援
第一 次	1	○形づくりにより、三角形、四角形の特徴について確かめる。	(知)三角形や四角形の性質を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間分けするときなど学習に児童が作図した図形を使うことで図形に対する意欲の向上を図る。(A児・B児) ・仲間分けする際に、見るだけでなく、実際に操作することができるように具体物を準備することで、特徴などについて自分で考えることができるようにする。(A児) ・ヒントカードを個々に対応して作ることで、それぞれの考えをさらに広げるきっかけとなるようにする。 A児：視覚・操作できるもの B児：図形の仲間のみを提示 C児：何種類に分けられるか ・友達の意見を確認、理解できるように他の児童が友達の発表を説明するようにする。(全児) ・説明の際に、具体物の操作をするなど、しっかりと理解できるように確認する。(A児) ・学習したことを図に表すことで、図形の特徴の理解が深まるようにする。(A児) ・学習したことを図に表すことで図形と図形の相関関係まで意識できるようにする。(全児)
	2	○自分なりの方法で四角形を仲間分けする。 ・四角形・長四角・真四角 ○直角の意味を知り、直角を探す。	(考)四角形の性質や辺の長さなどから自分なりに図形の仲間分けをする。 (関)身の回りの形の中から直角を進んで探す。	
	3	○長方形の意味や性質について考え、作図する。	(考)角や辺の長さに着目して長方形の特徴を考える。	
	4	・直角 ・向かい合う辺の長さ	(知)長方形の意味や基本的性質を理解する。 (表)方眼を使って、長方形の作図をする。	
	5	○正方形の意味や性質について考え、作図する。 ・直角 ・辺の長さ	(考)直角や辺の長さに着目して正方形の特徴を考える。 (知)正方形の意味や基本的性質を理解する。 (表)方眼を使って、正方形の作図をする。	
第二 次	6	○三角形を仲間分けし、直角三角形の意味や性質について考え、作図する。	(知)直角三角形の意味や基本的性質を理解する。	
第三 次	7	○図形について図でまとめ、図形の構成や特徴についてまとめる。	(知)長方形、正方形、直角三角形の基本的性質を理解し、それをわかりやすくまとめる。	
	8	○長方形や正方形、直角三角形を使ったゲームをする。 ・図形合わせ ・敷き詰め ・箱作り	(関)図形を用いていろいろな模様をつくったり、図形を使ったゲームに進んで取り組んだりする。	

研究主題とのかかわり

学習素材の活用の仕方を工夫することで、課題を意識し、意欲をもって学習に取り組むことができるようにする。

1 単元名 4年 三角形 (本時 2/10)

2 単元設定の理由

4年生の児童は男子6名、女子2名の計8名である。児童は前学年までの学習で、正方形や長方形、直角三角形などについて辺の長さや頂点、直角などに着目して図形を理解する経験もしてきている。また、一人ひとりの算数科の学習に対して以下のような傾向がある。

A 児	課題に対して自分なりの方法、自分の力で解決していこうと取り組むことができる。色々な線を書いて円の直径などについて調べるなど、図形に対しても様々な方法で考えることができる。
B 児	自分なりの方法で考え、自分の思いをみんなに発表することができる。友達の見解を聞いて自分の間違いに気が付くことができるようになってきている。
C 児	課題に対して一生懸命に取り組むことができるが、図形についてまとめたり、性質について確認したりする際に、思わぬ勘違いがあるので時々確認することが必要である。
D 児	友達の見解を聞いたり、学んだりしたことを使って問題を解こうとする姿勢がみられるようになってきた。自分で図形に一工夫したり、いろいろな発想をして解いたりすることは苦手である。
E 児	徐々に集中できるようになってきた。友達の見解を素直にきくことができるが、課題把握や定着までには時間がかかる。図形を仲間分けすることはできるが、それを説明することは苦手である。
F 児	周りの人の考えを気にするところがあるが、習ったことを身に付けようと努力することができる。作業に意欲的に取り組むが、正確に書くことができず、つまずきとなることがある。
G 児	課題に対して、自分から進んで活動しようという意欲が低いが、最近は徐々に自分から発表しようという姿がみられるようになってきている。図形の学習内容についてはしっかりと理解できている。
H 児	前学年までの学習が定着しておらず、学習において戸惑ってしまう場面がある。しかし、自分ができることが増えてきており、発表する機会を設けることで徐々に発表することにも慣れてきた。

本教材は、二等辺三角形や正三角形を分解したり構成したりする活動を通して図形を分析的に考察していく力を身に付け、図形の内容をはっきりとさせていくことをねらいとしている。また、重ねたり、描いたりといった操作活動が多く取り入れられる学習である。これは児童にとっても自分なりの意見や考えをもちやすく、その考えをもとに発表し、お互いの考えをつなぎあう活動にも発展していくことができる。また、図形の学習の導入の仕方を工夫し、学習の大切なポイントを視点として与えることで、さらに図形に対する関心・意欲が高まり、主体的な活動につながっていくと考える。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・児童がつくった図形から授業を展開することで、図形や学習に対する意欲の高まりへとつながるようにする。
- ・三角形の特徴について考える際に仲間分けをする活動を取り入れたり、辺の長さの違いをわかりやすく示したりして、活動の中からいろいろなことを考えることができるようにする。
- ・具体物や半具体物だけでなく、個に応じたヒントカードなどを準備し、一人ひとりに応じた学習の手だてを工夫する。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

- ・発表を他の児童による操作活動で確認するなど一人ひとりの意見を大切に、内容についても理解が深まるようにし、活発な意見交換につながるようにする。
- ・リーダー学習ではカードを見ながら、学習の流れに沿って進めることができるようになってきた。課題をつかむことに若干時間を必要とするが、一度取りかかると、最後まで自分たちで考えようと頑張りぬくことができるので、待つ指導を心がけたい。

3 目標

- 図形からそれぞれの「ちがひ」に着目し、気が付いたことを進んで発表する。
- 図形の構成要素（辺や角）に着目して、二等辺三角形や正三角形の特徴を考える。
- 二等辺三角形や正三角形の構成、弁別ができ、簡単な作図ができる。
- 図形の構成要素（辺や角）に着目して、二等辺三角形や正三角形の意味や基本的性質を理解する。

4 評価規準

関心・意欲・態度	・身の回りにある二等辺三角形や正三角形のものを見付ける。
数学的な考え方	・図形を構成する要素（辺、角）に着目して、図形の特徴について考える。
表現・処理	・辺の長さや角の大きさに着目して三角形の弁別ができる。 ・コンパスを使って二等辺三角形や正三角形の作図ができる。
知識・理解	・二等辺三角形や正三角形の意味や性質を理解する。

5 指導計画および評価（全10時間）

		学習活動・内容	評価の視点	教師の支援
第一 次	1	○三角形、四角形の形づくりをする。	(関)自分で色々な四角形や三角形をつくる。	・仲間分けがしやすいように長さを決めたストローを組み合わせて図形をつくらせる。 (C・D・E・F・G・H児) ・仲間分けする際に、具体物を準備することで、特徴などについて自分で考えることができるようにする。 (E・F・H児)
	2	○三角形の仲間分けをする。 ・二等辺三角形・正三角形	(考)角や辺など色々な観点で、仲間分けを考える。	
	3	○二等辺三角形や正三角形の意味や性質について考える。 ・辺の長さ	(考)三角形について長さに着目して性質を考える。 (知)二等辺三角形や正三角形の意味や基本的性質を理解する。	
	4	○二等辺三角形や正三角形を作図する。 ・コンパスを用いた作図	(表)コンパスを使って、二等辺三角形や正三角形の作図をする。	
	5	○身の回りから正三角形や二等辺三角形を探す。	(関)身の回りの形の中から二等辺三角形、正三角形を進んで探す。	
第二 次	6	○角の意味や性質について考える。	(知)角の意味や角の大きさの比べ方を理解する。	・ヒントカードを児童の実態に応じてつくることで、それぞれの考えをさらに広げるきっかけとなるようにする。 (全児) ・友達の意見を確認、理解できるように他の児童が友達の発表を説明するようにする。 (全児)
	7	○二等辺三角形、正三角形の角の関係について考える。	(知)二等辺三角形、正三角形の角の関係を理解する。	
第三 次	8	○図形について図でまとめ、図形の構成や特徴についてまとめる。	(知)二等辺三角形・正三角形の基本的性質を理解し、それをわかりやすくまとめる。	・学習したことを図に表すことで、図形の特徴の理解が深まるようにする。 (C・D・E・F・G・H児) ・学習したことを図に表すことで図形と図形の相関関係まで意識できるようにする。 (全児)
	9	○二等辺三角形や正三角形を使ったゲームをする。 ・図形合わせ ・敷き詰め	(関)図形を用いていろいろな模様をつくったり、図形を使ったゲームに進んで取り組んだりする。	

6 本時案 (第一次 2 / 8)

- (1) 主眼 四角形を、辺の長さや角の大きさ、形など様々な観点で、仲間分けをし、その根拠を説明することができる。
- (2) 準備 図形 (ストロー・紙) ホワイトボード・ヒントカード
- (3) 学習過程

前時の学習	ストローを使って三角形や四角形の形作りを行った。		
流れ	教師の働きかけ・リーダーの指示	学習活動・内容	直間
つかむ		1 課題内容を確認し、解決への見通しをもつ。	
	四角形をなかまに分けてみよう。		
かかんがえる	<p>L 今日の課題は「四角形をいろいろな仲間に分けてみよう」です。 20分で自分の考えをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体物として紙やストローで作った形を用意し、動かしたり、重ねたりして考えられるようにしておく。 ・仲間分けをする観点が見付からない児童のためにヒントカードを準備しておく。 <p style="text-align: right;">(評価ア ノート)</p>	2 図形の特徴から、四角形の仲間わけの仕方(種類)を考える。	
つなぎあう	<p>L 自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解が深まるように、発表の確認では、実際に作図したものを準備しておく。 ・発表した分け方で他に当てはまるものがあるかを確認する。 <p style="text-align: right;">(評価イ 発表)</p>	3 どんな種類に分けたか、発表し合う。	
まとめる	<p>L 今日勉強した図形の分け方についてまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなところに注目して分けたのか観点をはっきりとさせることで、他の児童の意見との相違点についてはっきりととらえられるようにする。 ・角や長さなどに着目した仲間分けすることを通して、次時の課題である「直角」が出てくるようにする。 	4 図形の分け方についてまとめる。	
		5 次時の見通しをもつ。	
次時の学習	直角の意味を知り、身の回りから直角を探す。		

(4) 評価

- ア (関) 図形に関心を持ち、進んで図形の仲間分けをしている。
- イ (考) 辺の長さや角に着目して、図形の特徴を考える。

6 本時案 (第一次 2/10)

- (1) 主眼 いろいろな三角形を、角や辺など様々な観点で、仲間分けをし、その根拠を説明することができる。
- (2) 準備 図形 (ストロー・紙) ホワイトボード・ヒントカード
- (3) 学習過程

前時の学習		ストローを使って形作りを行い、三角形のなかま分けの仕方について考えた。	
直・間	学習活動・内容	教師の働きかけ・リーダーの指示	流れ
		<p>L 今日の課題は「三角形をなかまに分けてみよう」です。発表の準備をしましょう。</p>	つ な ぎ あ う
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 三角形をなかまに分けてみよう。 </div>		
	<p>1 どんな種類に分けたか、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辺の長さ ・角 	<p>L 自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解が深まるように、発表の確認では、実際に紙、ストローでつくった形を準備しておく。 ・発表した分け方で他に当てはまるものがあるかどうか確認する。 <p style="text-align: right;">(評価イ 発表)</p>	
	<p>2 三角形の分け方についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辺の長さ (3辺が同じ、2辺が同じ、辺の長さがばらばら) ・角 (角の大きさが3つ同じ、2つ同じ、ばらばら) 	<p>L 図形の分け方や分けた図形について気が付いたことをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の分け方では、構成要素をもとにまとめることで、以後に学習する角と三角形の関係などにもつながるようにする。 ・児童の考えた仲間分けをもとに、同じくくりにできそうなものをまとめていくことで形の共通点などをつかみやすくしていく。 	
	<p>3 次の課題の確認をする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 二等辺三角形ってどんな形？ </div>	つ か む
	<p>4 二等辺三角形同士を比べ、共通しているところなどを探し、二等辺三角形の意味や性質について考える。</p>	<p>L 二等辺三角形がどんな形か二等辺三角形のきまりを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が分類したものから三角形の名前を聞き、名前からの予想や実際の確認作業などを通して考える。 <p style="text-align: right;">(評価ア ノート)</p>	か ん が え る
次時の学習		二等辺三角形や正三角形の意味や性質について考える。	

(4) 評価

- ア (関) 図形の特徴を捉えようといろいろな角度から考えたり、操作活動をしったりする。
- イ (考) 三角形を角や辺など様々な観点で仲間分けの仕方を考える。

研究主題とのかかわり

学習素材の活用の仕方を工夫し、リーダー学習を進めることで、課題を意識して、互いの考えを交流させながら、意欲的に学習することができるようにする。

- 1 単元名 3年 すきな本をしょうかいし合おう（本時17/19）
 教材名 『きつねをつれて村祭り』『あなたはどのきつねが好き？』『クイズで本をしょうかいし合おう』

2 単元設定の理由

本学級の3年生（女子5人）は、学習態度がまじめで課題解決のために、集中して取り組むことができ、リーダーカードに沿って、学習を進めることもできるようになっている。また、国語科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

A児	課題に対して集中して取り組み、時間は少しかかってもじっくり考えて文章の内容を読み取ることができる。人の話を落ち着いて聞く態度も身に付いている。
B児	課題に対して意欲的で、文章の読み取りも速くできる。はっきりとした大きな声で発表したり、気持ちを込めて音読したりすることもできる。
C児	文章の正しい読み取りができ、友達の発表も最後まできちんと聞くことができる。自分が思ったことや考えたことを、みんなの前で話すのがやや苦手である。
D児	何をすればよいのか課題を把握したり、文章の内容を読み取ったりするのに少し時間がかかる。自分が書いた文章は、正しく読んで発表することができる。
E児	課題に対して進んで取り組み、文章の読み取りも速くできる。発表もはっきりとした大きな声で発表することができるが、話を最後まで聞くことがやや苦手である。

本単元は、物語、本の紹介、読書交流活動の3つの教材で構成され、読んだ本を紹介し合うことをねらっている。まず、物語『きつねをつれて村祭り』を学習することを通して、内容の読み取りとともに、物語の面白さ、本を読む楽しさを味わうことができる。次に『あなたはどのきつねが好き？』では、広がる読書として、きつねが登場する本を7点紹介し、読書の幅を広げ、児童の読書意欲を高めることができる。最後に『クイズで本をしょうかいし合おう』では、友達どうしで感動した本を紹介し合うことで、読書生活を豊かにしていこうとする態度を育てることができる。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・周防大島昔話集(宮本常一編著)を使って、読んだ話のクイズ作りをすることや1・2年生にクイズを出すことなどを事前に紹介することによって、クイズを「作ってみたい」という知的好奇心を抱かせ「やってみよう」という意欲を高めることができるようにする。
 - ・会話文のほかに、内言を表す()、「?」「!」「…」などの符号を手がかりにすることによって、場面の情景や人物の様子を読み取ることができるようにする。
 - ・間接指導時に一人学びが進んでできるように、ワークシートを活用して読み取ったことをまとめられるようにする。
 - ・聞き手に紹介したいことをうまく伝えることができたか、友達の発表を正しく聞き取ることができたかを振り返りカードを使うことによって、自己評価ができるようにする。
- また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。
- ・地域素材の周防大島昔話集(宮本常一編著)を活用して、クイズ作りをすることによって興味・関心を持続させ、課題を意識して学習に取り組むことができるようにする。
 - ・リーダーカードや「発表の仕方・話の聞き方」を使うことによって、自分たちで主体的に学習を進め、課題に沿った話し合いができるようにする。

3 目標

- 場面の情景や人物の様子を想像しながら読み取る。
- 場面の情景や人物の様子がよく表れるように音読する。
- 同じ動物を取り上げた読み物に興味を持ち、進んで読書の幅を広げる。

- 読んだ本をクイズを作って紹介し合う方法を知る。
- 相手にうまく伝わる紹介のしかたをくふうする。
- 読書を交流し合う喜びを知り、自分の読書生活の幅を広げる。

4 評価規準

観 点	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	・自分の読書生活に気づき、幅広く読書を楽しもうとする。
話す・聞く能力	・紹介したい本のおもしろさを相手にわかりやすく伝える。
書く能力	・本の紹介に必要な事गरらを収集し、クイズや原稿にまとめる。
読む能力	・場面の移り変わりや人物の様子を考えながら、物語の内容を読み取る。 ・場面の様子や人物の心情がよく表れるように音読する。
言語についての知識・理解 ・技能	・言葉と言葉の結び付きを考え、区切り方に気をつけて音読する。

5 指導計画及び評価 (総時数 19 時間)

	学習活動・内容	評価の視点	教師の支援
第 一 次	1 ○単元全体を見通して、学習の見通しをもつ。 ・学習の見通しと課題意識をもつこと ・新出漢字と語句の学習	(関)物語文を読み、好きな本を友達に紹介しようとする。 (言)意味や読みのわからない語句について理解する。	・単元全体の見通しがもてるように19時間分の学習の流れ(学習計画)を掲示する。 (全児)
第 二 次	2 ○全文を通読して、あらすじをとらえる。 ・読み取りの課題設定	(関)物語文を読み取って、わかったことを伝えようとする。	・全文を読むのに時間がかかり、最後まで集中して読めない児童のために、教材文の範読を聞かせ、大まかな内容をつかむことができるようにする。(A児・D児) ・読み取ったことを整理させるために、会話文から自分が思ったことを書けるようにしたワークシートを用意する。(D児・E児) ・読み取りを深めるために、会話文や内言を表す()、「?」「!」符号などに注意して、読み取るように助言する。(B児) ・感想文を書くのが遅い児童のために、手紙形式でまとめた感想を書くことができるようにする。(C児)
	3 ○全文を4つの場面に分ける。 ・4つの場面のでき事	(読)叙述に即して村祭りの楽しい様子や、ごんじい、こうたの心情を、想像しながら読む。	
	4 ○ごんじいとこうたの出会いの様子を読み取る。	(読)読み取ったことを生かして、場面の様子がわかるように音読する。	
	5 ○境内のお祭りの楽しい様子を読み取る。	(書)会話文を中心に、登場人物のしたこと、言い方、気持ちなど、叙述に沿って読み取ったことを書く。	
	6 ○おかぐらをおどる時と逃げ出す時のこうたの気持ちや様子を読み取る。	(話・聞)登場人物の様子を想像して発表したり、一人一人の感じ方に違いがあることに気づきながら聞いたりする。	
	7 ○別れの様子と心のつながりについて考える。		
	8 ○音読をくふうし合った後に、心に残っていることを手紙に書く。 ・こうたとごんじいへの手紙		
	9		
	10		
第 三 次	11 ○きつねが登場する本を読む。 ・読書カードの書き方 12 ○好きなきつねについて発表する。	(関)きつねが出てくる本を読み、知らせたいことを読書カードに書こうとする。 (話)(書)自分が読み取ったことをわかりやすくまとめて発表する。	・読書カードを活用して、読んだ本の心に残ったことやわかったことを記録することができるようにする。 (全児)
第 四 次	13 ○3つのクイズの作り方を理解する。	(話)聞き手によくわかるようにクイズの出し方を考え、紹介したいこと伝える。	・ワークシートを用意し、教科書の準備方法や挿絵を参考にさせて、構想をしっかりと練ることができるようにする。(全児) ・クイズ作りで迷っている児童には、教科書の3つの例に戻らせて、吹き出しや絵で作り方を再確認するように助言する。 (A児・E児)
	14 ○聞き手に興味をもって聞いてもらえるようなクイズ	(書)3つの例を参考にしながら友達が見たくなるように、伝えたいことを整理してクイズにまとめる。	
	15 ○自分が作ったクイズを出し	(読)心に残ったことをまとめ、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づく。	
	16 り合わせる。本の紹介を楽しむ。		
	17		
	18		
	19		

6 本時案 (第四次 17 / 19)

- (1) 主眼 自分が作ったクイズを出し合って、本の紹介を楽しむことができる。
- (2) 準備 発表用の絵・文字カード、クイズ作りのためのワークシート、振り返りカード
- (3) 学習過程

前時の学習		本の紹介をするクイズをくふうして作った。	
流れ	教師の働きかけ・リーダーの指示(L)	学習活動・内容	調
つかむ	クイズを出し合って、本のしょうかいを楽しもう。		
／	<p>L 課題を読みましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示することで、本時の学習の見通しをもたせる。 <p>L 自分が書いた本のしょうかい文を見直しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の紹介文の見直しの視点を掲示し、聞き手が本の紹介文を聞いてクイズに答えられるかを意識しながら原稿を読んで見直しができるようにする。 (評価イ ワークシート) 	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題把握 <p>2 本の紹介文の原稿を読み返し、紹介の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語バラバラクイズ (お話のあらすじを、場面ごとに簡単にまとめているか) ・「だれがどうなった？」クイズ (登場人物の特徴としたことが書けているか) ・「読んでなるほど！」クイズ (本の内容からクイズを考えているか) ・本の紹介文と絵やカードとの照応 	
かんがえる	<p>L クイズを出し合って、本のしょうかいをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は紹介文を聞きながら、必要に応じてメモをし、クイズの回答と紹介文の気づきなどを、後で発表できるようにする。 ・聞き手が、発表者の発表の仕方やわかりやすい内容であったかを評価できるように、評価カードを準備する。 ・話型を使って、自分の思いも本の紹介と一緒に話すことができるようにする。 (評価ア 発表) 	<p>3 クイズを出し合って、本の紹介を楽しみながら、気づいたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズの答えを考えること ・本の紹介文のよかったところ ・本の紹介文でわかりにくかったところ ・発表の仕方 	
／	<p>L 今日の学習の振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介したいことをうまく伝えることができたか、振り返りカードを用意し、自己評価ができるようにする。 	<p>4 本の紹介文のやり直しや書き加えをしたり、本時のまとめをしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の紹介文の修正 ・学習の振り返り 	
つなぎあう			
／			
まとめ			
次時の学習	1・2年生にクイズで本の紹介をする。		

(4) 評価

- ア (話) : 聞き手によくわかるようにクイズの出し方を考え、紹介したいこと伝える。
- イ (書) : 3つの例を参考にしながら友達が読みたくなるように、伝えたいことを整理して本の紹介文にまとめる。

研究主題とのかかわり

学習素材の活用の仕方を工夫し、リーダー学習を進めることで、課題を意識して、互いの考えを交流させながら、意欲的に学習することができるようにする。

- 1 単元名 4年 きょうみのある本をしょうかいし合おう（本時17/19）
教材名 『カレーの旅』『食べよう、作ろう、読んでみよう』『読書新聞を作ろう』

2 単元設定の理由

本学級の4年生（男子1人、女子2人）は、学習態度がまじめで課題解決のために、協力して取り組むことができ、リーダーの指示により、話し合いを進めることもできるようになってきている。

また、国語科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

A児	課題を把握したり、内容の大体や文脈に合った語の意味を読み取ったりするのに少し時間がかかる。自分が書いた文章は、正しく読んで発表することができる。
B児	文章の大事な部分を読み取ったり、メモから考えを広げて書いたりするのに少し時間がかかる。筋道を立てて話したり、中心に気をつけて聞いたりすることができる。
C児	課題に対して意欲的で、文章の読み取りも速くできる。自分の考えを筋道を立てて話したり、場面の様子や人物の気持ちを考えて音読したりすることもできる。

本単元は、『カレーの旅』『食べよう、作ろう、読んでみよう』『読書新聞を作ろう』の3つの教材で構成されている。

最初の説明的文章『カレーの旅』では、「問題提示」、「説明」、「まとめ」という段落構成や、観点を決めて読み取っていくという目的的な読みをすることにより、目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む力を育てることができる。次に、『広がる読書 食べよう、作ろう、読んでみよう』では、ブックトークなどにより食べ物が出てくる本を紹介し、読書に関する興味・関心を高めて、関連図書の読書することにより、幅広く読書しようとする態度を育てることができる。最後の『読書新聞を作ろう』では、読書交流の手段として読書新聞を取り上げ、読書新聞を作る活動しながら読書についての意見交換をすることによって、豊かな読書生活を送ろうとする関心や意欲を高めることができる。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・「問題提示」「説明」「まとめ」という文章構成、接続語や文末表現などの工夫を手がかりにして読むことによって、説明文の仕組みを学ぶことができるようにする。
- ・説明文の読み取りや記事の下書きでは、観点やポイントなどを載せたワークシートを活用し、学習が計画的・効率的に進めることができるようにする。
- ・学習状況や満足度を把握したりできる振り返りカードを使うことによって、自己評価ができるようにする。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

- ・学習計画表で学習の見通しをもたせたり、リーダー学習を仕組んだりして、自分たちで学習を進め、ねらいに沿った話し合いができるようにする。
- ・学習素材として宮本常一副読本や郷土料理を取り上げた本などを活用し、興味・関心を高めて、幅広く読書することができるようにする。

3 目標

- 説明文を問題提示、説明、まとめの大きな3つのまとまりに分け、文章構成をとらえる。
- 段落ごとに内容を正確に読み取り、筆者の書き方のくふうを見つける。
- 同じような内容を取り上げた読み物に興味をもち、進んで読書の幅を広げる。
- 「読書新聞」で本を紹介し合えることを知り、伝えたいことがよくわかるようにくふうして記事を書く。
- 「読書新聞」を通して、読書の交流をし合う喜びを知り、自分の読書生活の幅を広げる。

4 評価規準

観 点	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	・興味のある内容やテーマの本を読もうとする。 ・どんな事を伝えたいのかを、はっきりさせて書こうとする。
話す・聞く能力	・読書新聞の計画や手順、記事の内容について話し合う。
書く能力	・相手に伝わるように、くふうして記事を書く。 ・計画にしたがって、新聞を仕上げる。
読む能力	・筆者の意図や表現上のくふうを読み取る。 ・各国のカレーについて、観点に沿って読み取る。
言語についての知識・理解 ・技能	・文末表現の特徴に気づき、その効果を理解する。 ・常体か敬体で一貫して表記する。

5 指導計画及び評価 (総時数 19 時間)

	学習活動・内容	評価の視点	教師の支援
第一 次	1 ○教材名、写真、吹き出しの言葉から、学習内容を予想し、見通しをもつ。 ・学習の見通しをもつこと ・新出漢字と語句の学習	(関)興味・関心をもって教材文を読み取ろうとする。 (言)意味や読みのわからない語句について理解する。	・単元全体の見通しがもてるように、19時間分の学習の流れ(学習計画)を掲示する。 (A児・B児)
第二 次	2 ○「カレーの旅」の範読を聞き、大まかな内容をつかみ、初発の感想を書く。	(話・聞)学習したことをまとめて相手にわかるように話したり、友達の発表を興味をもって聞いたりする。	・3カ国のカレーについて、共通点、相違点を読み取ることができるよう、観点を載せたワークシートを用意する。 (A児・B児)
	3 ○全文を通読し、文章が3つの部分で構成されていることを知る。	(読)説明文を「問題提示」「説明」「まとめ」に分けて概要をつかむ。	
	4 ○第1・2段落を読み、問題を把握する。	(読)各国のカレーの特徴について観点(カレーのもと・カレーの材料・伝わり方)に沿って読み取る。	・筆者の思いや読み取りを深めるために、問いかけたり呼びかけたりする文末表現や接続語に注意して読み取るように助言する。(A児) ・写真を参考にしたり、それぞれのカレーの特徴が書かれているところにサイドラインを引いたりして、共通点、相違点を読み取ることができるようにする。 (全児)
	5 ○インドのカレーについて読み取る。	(書)各国のカレーの特徴について、観点に沿って読み取ったことをまとめて書く。	
	6 ○イギリスのカレーについて読み取る。	(関)自分の興味のある本やテーマに関係のある本を選んで読もうとする。	
	7 ○日本のカレーについて読み取る。	(関)相手によく伝わるように読書新聞の記事を書こうとしている。	
	8 ○まとめの文を読み、筆者の意図を読み取る。 ・筆者の伝えなかったこと	(話)新聞作りのために、計画や手順、記事の内容について話し合う。	・いろいろな新聞を比べたり新聞づくりの資料を活用したりして、新聞の割り付けや見出しの工夫などをおさえることができるようにする。 (A児・B児)
	9 ○「食べ物が出てくる本」をさがして読む。 10 11 ・食べ物を取り扱った本の読書	(話・聞)自分の意見をほかの人と比べて聞いたり、話したりする。 (書)書きたい記事について、調べたことをまとめ、わかりやすく記事に書く。 (書)割り付けをし、新聞を仕上げる。	
第三 次	12 ○教材文を読んで読書新聞作りの手順を知る。 ・読書新聞作りの手順	(読)読書新聞を読み合い友達の記事のよさを見つける。 (言)割り付けや見出しの書き方、記事らしい簡潔な書き方などを身につける。	・読書新聞を読み合うときには、ワークシートを用意し、良さや改善点、感想が書けるようにする。 (A児・B児)
	13 ○読書新聞を作る計画を話し合う。 ・読書新聞作りの計画		
	14 ○計画にしたがって、資料を集め、記事を書く。 15 16 ・記事の執筆、推敲		
第四 次 時	17 ○読書新聞を仕上げる。 ・記事の割り付け・仕上げ		
	18 ○読書新聞を読み合って、感想を話し合う。 19 ・読書新聞の紹介		

6 本時案 (第三次 17/19)

(1) 主眼 下書きした文章を読み合って、見直しをすることができる。

(2) 準備 「新聞記事の作成の手順」を書いた紙(黒板掲示用)、記事の下書きを書いたワークシート、振り返りカード、清書用のプリント

(3) 学習過程

前時の学習	読書新聞に載せる記事の下書きを書いた。		
欄	学習活動・内容	教師の働きかけ・リーダーの指示(L)	流れ
	下書きした文章を読み合って、見直しをしよう。		かんがえる / つなぎあう / まとめる / つかむ
	1 自分が書いた記事の下書きを読み返す。 ・伝えたいことが書けていること ・段落分け ・正しい漢字や語句の使い方 ・正しい句読点や符号の使い方	L 自分が書いた記事の下書きを見直しましょう。 ・見直しの視点を掲示し、それを押さえることによって、読んだ人に内容が正しく伝わるかを意識しながら見直すことができるようにする。	
	2 下書きした記事を読み合いながら、気づいたことを伝え合う。 ・記事のよいところ ・記事で変えた方がよいところ	L 下書きを読み合って、気づいたことを伝えましょう。 ・各自の下書きした記事を3人分用意し、発表を聞きながら気づいたところを直接それに書くことができるようにする。 ・聞き手は、見直しの視点に沿って友達の発表を聞き、記事のよいところや変えた方がよいところを伝えることができるようにする。 (評価ア 発表)	
	3 話し合いで出された意見を参考に、下書きを書き直す。 ・記事の推敲	L 書き直した方がよいところを書き直しましょう。 ・赤で訂正したところを見直し、友達のアドバイスや自分で新しく工夫したところも付け加えながら、書き直すことができるようにする。 (評価イ ワークシート)	
	4 本時のまとめをする。 ・学習の振り返り	L 今日の学習の振り返りをしましょう。 ・振り返りカードを用意し、自己評価ができるようにする。	
	記事の清書をしよう。		
	5 次時の学習課題を確認する。 ・行間のくふう ・筆記用具のくふう(ペンの色や太さ) ・挿絵や囲みなどのくふう	L 新しい課題を読みましょう。 ・清書のポイントを参考に、記事の清書をくふうして丁寧に書くように助言する。	
次時の学習	記事を割り付け、読書新聞を仕上げる。		

(4) 評価

ア(話): 新聞作りのために、記事の内容について話し合う。

イ(書): 書きたい記事について、調べたことをまとめ、わかりやすく記事に書く。

研究主題とのかかわり

学習素材の活用の仕方を工夫し、リーダー学習を進めることで、課題を意識して、互いの考えを交流させながら、意欲的に学習することができるようにする。

- 1 単元名 3年 考えを出し合おう（本時9／11）
教材名 『インタビューの計画』

2 単元設定の理由

本学級の3年生（女子5人）は、学習態度がまじめで課題解決のために、集中して取り組むことができ、リーダーカードに沿って、学習を進めることもできるようになっている。また、国語科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

A児	課題に対して集中して取り組み、時間は少しかかってもじっくり考えて文章の内容を読み取ることができる。人の話を落ち着いて聞く態度も身に付いている。
B児	課題に対して意欲的で、文章の読み取りも速くできる。はっきりとした大きな声で発表したり、気持ちを込めて音読したりすることもできる。
C児	文章の正しい読み取りができ、友達の発表も最後まできちんと聞くことができる。自分が思ったことや考えたことを、みんなの前で話すのがやや苦手である。
D児	何をすればよいのか課題を把握したり、文章の内容を読み取ったりするのに少し時間がかかる。自分が書いた文章は、正しく読んで発表することができる。
E児	課題に対して進んで取り組み、文章の読み取りも速くできる。発表もはっきりとした大きな声で発表することができるが、話を最後まで聞くことがやや苦手である。

本単元は、班での〈話し合い〉と、主に聞く活動としての〈インタビュー〉から構成されている。〈話し合い〉活動では、少人数のグループの中で、話し合いの形式やルールを学びながら、自分の考えや意見を出し合って共通理解や問題解決を図っていく力を育てることができる。また、聞く活動としての〈インタビュー〉では、目的を明確にして大事なことを落とさずに聞き取ることを中心に、聞き取ったことをわかりやすく伝えるために筋道を立てて話そうとする態度を育てることができる。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・宮本常一氏が撮影した油田の写真(昭和40年～44年)を使って、地域の人に「昔の油田の様子」をインタビューをすることや宮本常一作品展に出品することなどを事前に紹介することによって、知的好奇心を抱かせ、意欲を高めることができるようにする。
- ・音声CDや教科書に掲載されている「いろいろな言い方」(話形の例)、「発言のしかた」、「話す・聞くの押さえたい基礎・基本」などを手がかりにすることによって、班での話し合いの進め方を身につけることができるようにする。
- ・自主的に一人でインタビューができるように、インタビューの基本話形や質問メモなどを書いたワークシートを用意する。
- ・インタビューの基本話形を活用し、あいさつや丁寧な言葉遣い、相手にわかりやすい話し方など、相手を尊重した話の仕方を身につけることができるようにする。
- ・インタビューをしたことの発表の場面では、聞き手に紹介したいことをうまく伝えることができたか、友達の発表を正しく聞き取ることができたかを振り返りカードを使うことによって、自己評価ができるようにする。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

- ・地域素材の宮本常一氏撮影の写真を活用することによって、興味・関心を持続させ、課題を意識して学習に取り組むことができるようにする。
- ・リーダーカードや「発表の仕方・話の聞き方」(教室前面掲示)を使うことによって、自分たちで主体的に学習を進め、課題に沿った話し合いができるようにする。

3 目標

- 話題にそった話し合いを進めるために、意見交換の仕方について知る。
- 班で話し合って、計画を立てて、インタビューをする。

4 評価規準

観 点	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの楽しさや意義を知り、進行に協力しようとする。 ・インタビューの仕方に興味をもっている。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の仕方など話し合いのルールに従って、話したり聞いたりしている。 ・自分の考えを聞き手にわかるように話している。 ・自分の経験や考えと比べながら聞き、自分の意見や感想がもっている。 ・メモを取るなどして、相手の話の要点を聞き取っている。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・班での話し合いやインタビューで、大事なことはメモを取る。 ・メモをもとに聞いたことを、相手にわかるようにまとめる。
言語についての知識・理解 ・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の大きさや相手に合わせて、声の大きさや速さを変えている。 ・班での話し合いやインタビューで、ていねいな言葉で話している。

5 指導計画及び評価 (総時数 11 時間)

	学習活動・内容	評価の視点	教師の支援
第一 次	1 ○話し合いやインタビューについてこれまでの経験を話し合い、学習のめあてをもつ。 ・学習のめあてや見通しをもつこと	(関)話し合い活動の学習に向けて、自分なりのめあてをもとうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・扉の絵や吹き出しなどをもとに、単元全体の見通しがもてるようにする。(全児) ・話し合いの音声CDを活用し、話し合いの例を紹介する。(C児・D児)
	2 ○役割を決めて「川上さんの学級」の話し合いを演じ、気がついたことなどを話し合う。 ・班の話し合いの進め方	(話・聞)発言のしかたについて、良いと思ったことをノートに書いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「発言のしかた」を手がかりに、自分が演じた発言が適切であったかを振り返るように助言する。(A児・D児)
	3 ○地域の人にインタビューする計画について、班で話し合って決める。 ・インタビューの計画を立てる話し合い	(話・聞)話し合いのルールに従い、各自のめあてに即して、話したり聞いたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・班での話し合いの進め方(活動手順)やいろいろな言い方(話形の例)を掲示し、話し合いがスムーズに進められるようにする。(C児・E児)
第二 次	4 ○インタビューの仕方を考え、計画に基づいて準備や練習をする。 ・インタビューの準備	(話・聞)インタビューの進め方や、質問の仕方などを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用意し、当日の流れ、質問の仕方や質問する内容などを書くことができるようにする。(全児)
	5 ○地域の人を訪問し、インタビューする。 ・インタビューの仕方	(話・聞)メモを効果的に取るなどして、相手の話の要点を聞き取っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューをする相手への依頼は、事前に担任が連絡をとったうえで、電話などで児童に依頼させるようにする。(全児)
	6 ○メモをもとに聞いたことをまとめる。 ・インタビューのまとめ	(書)メモをもとに聞いたことを、相手にわかるようにまとめている。	
	7 ○インタビューしたことを発表する。 ・インタビューの発表	(話・聞)インタビューしたことや自分の考えをわかるように話している。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いてきたことのほかに、インタビューを通して感じたことや考えたことも話せるようにする。(全児)
第三 次	10 ○インタビューをした地域の人に、お礼のはがきを書く。 ・お礼のはがきを書くこと	(書)インタビューをした地域の人に、感謝の気持ちをはがきに書いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p40・41 を参考にして、お礼のはがきの書き方を確かめて書けるようにする。(A児・C児)
	11 ○興味をもっている話題について、班で話し合う。 ・テーマに沿った話し合い	(話・聞)話し合いで、ていねいな言葉で話している。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進め方や役割分担については、ノートや教科書を参考にして、これまでの学習の振り返りができるようにする。(全児)

6 本時案 (第三次 9 / 11)

- (1) 主眼 昔の油田の様子について、インタビューしたことを発表し合うことができる。
- (2) 準備 宮本常一氏撮影の写真、インタビューで使用したワークシート、振り返りカード
- (3) 学習過程

前時の学習	インタビューをしたことをまとめた。		
流れ	教師の働きかけ・リーダーの指示(L)	学習活動・内容	評価
つかむ	昔の油田の様子について、インタビューしたことをみんなで発表し合おう。		
／	<p>L 課題を読みましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示することで、本時の学習の見通しをもたせる。 <p>L 発表の準備をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真と説明で大きく変わったもの、昔から変わらないものなどが、聞き手に伝わるかを意識しながらインタビューのメモを見直すことができるようにする。 ・発表のために、作文にまとめることはせず、メモをもとにおおまかに発表できるように練習する。 	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題把握 <p>2 インタビューのメモを見直し、発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューしたこと ・発表する順序 ・発表の仕方 	
かんがえる	<p>L インタビューしたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大した油田地区の昔と今の写真を黒板に掲示したり、声の大きさ、速さに気をつけて話すことを示した教科書の挿絵を参考にしたりして、聞き手によく分かるように、発表することができるようにする。 ・インタビューのまとめとして、聞いてきたことのほかに、インタビューを通して感じたことや考えたことも話すようにさせる。 <p style="text-align: center;">(評価ア イ 発表)</p>	<p>3 みんなで発表し合いながら、気づいたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の油田(伊保田・油宇)の様子(40年前) ・今の油田の様子 ・わかったこと ・発表の仕方のよいところ 	
／	<p>L 今日の学習の振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューしたことをうまく伝えることができたか、振り返りカードを用意し、自己評価ができるようにする。 	<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返り 	
つなぎあう			
／			
まとめる			
次時の学習	インタビューをした地域の人に、お礼のはがきを書く。		

(4) 評価

- ア (話・聞) : インタビューしたことや自分の考えを聞き手にわかるように話している。
- イ (言) : 集団の大きさや相手に合わせて、声の大きさ、速さを変えている。

研究主題とのかかわり

学習素材の活用の仕方を工夫し、リーダー学習を進めることで、課題を意識して互いの考えを交流させながら、意欲的に学習することができるようにする。

- 1 単元名 4年 言葉のおもしろさを見つめよう（本時10/11）
教材名 『広告の言葉を考えよう』

2 単元設定の理由

本学級の4年生（男子1人、女子2人）は学習態度がまじめで、課題解決のために協力して取り組むことができ、リーダーの指示により話し合いを進めることもできるようになってきている。

また、国語科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

A児	課題を把握したり、内容の大体や文脈に合った語の意味を読み取ったりするのに少し時間がかかる。自分が書いた文章は、正しく読んで発表することができる。
B児	文章の大事な部分を読み取ったり、メモから考えを広げて書いたりするのに少し時間がかかる。筋道を立てて話したり、中心に気をつけて聞いたりすることができる。
C児	課題に対して意欲的で、文章の読み取りも速くできる。自分の考えを筋道を立てて話したり、場面の様子や人物の気持ちを考えて音読したりすることもできる。

本単元、『広告の言葉を考えよう』では、広告の言葉(キャッチコピー)をつくるという課題に興味をもたせ、自分の身の回りの生活の中から、おもしろい効果を生む言葉の使い方に関心をもつことができ、言葉の使い方に関心を深めることができる。また、くふうされた言葉の宝庫である広告や、慣用句などを通して、言葉のおもしろさに関心をもつとともに、自分の思いや考えを伝える言葉を意識し、大切にしていこうとする態度を育てることができる。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・周防大島町の広告の言葉(キャッチコピー)をつくるという学習課題を提示することで、学習の見通しをもって学習することができるようにする。
- ・単元の終末に学習成果を発表する場を設定することによって、目的意識をもって学習することができるようにする。
- ・つくった周防大島町の広告の言葉を周防大島町観光商工課に送ることを事前に紹介することによって、知的好奇心を抱かせ、意欲を高めることができるようにする。
- ・広告の言葉づくりの過程を十分に確保し、言葉の使い方や面白さを話し合うことにより自分の思い・考えや友達からの助言が作品づくりに生かすことができるようにする。
- ・教科書に示された手順を黒板に掲示し、それを参考にして読み手を引きつけるような広告の言葉をつくることができるようにする。
- ・人の心を引きつける言葉の使い方を載せたワークシートを活用し、学習が計画的・効率的に進めることができるようにする。
- ・学習状況や満足度を把握する振り返りカードを使うことによって、自己評価ができるようにする。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

- ・学習素材として「周防大島町の広告の言葉づくり」を活用し、興味・関心を高めて、学習を持続することができるようにする。
- ・学習計画表で学習の見通しをもたせたり、リーダー学習を仕組んだりして、自分たちで学習を進め、ねらいに沿った話し合いができるようにする。

3 目標

- 広告の言葉のおもしろさや人の心を引きつけるくふうなどを知る。
- 言葉の使い方をくふうして、広告の言葉をつくる。
- つくった広告の言葉を発表し合い、言葉を効果的に使おうとする意欲を高める。

4 評価規準

観 点	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	・ 広告表現に興味をもとうとする。 ・ 言葉による表現をくふうしようとする。
話す・聞く能力	・ 広告の言葉を集めて使い方のくふうやおもしろさなどを話し合う。
書く能力	・ 身の回りの広告の言葉を参考にして、伝えたいことを短い言葉で表す。
言語についての知識・理解 ・ 技能	・ 広告の言葉をつくる時に、辞書を活用して意味を確かめる。

5 指導計画及び評価 (総時数11時間)

	学習活動・内容	評価の視点	教師の支援
第一 次	1 ○ 広告の言葉を調べて、広告の言葉を考える学習計画を立てる。 ・ 学習の見通しをもつこと	(関) 広告の表現に興味・関心をもとうとする。 (言) 広告の目的や言葉について考えようとする。	・ 広告の言葉(キャッチコピー)について教科書の例示から理解し、学習の見通しをもつことができるようにする。(A児・B児)
第二 次	2 ○ 身の回りにある広告の言葉を集めて、ノートに整理する。 ・ 広告の言葉集め	(書) 身の回りにある広告の言葉を集めて、ノートに整理する。	・ 場所、広告の種類、キャッチコピーの項目を載せたワークシートを用意し、簡潔にまとめることができるようにする。(A児・B児)
	3 ○ 広告の言葉について各自が整理したことを発表し合い、言葉の使い方やおもしろさを話し合う。 ・ 気に入った言葉のおもしろさやくふう	(話) 広告の言葉について言葉の使い方やおもしろさを発表する。	・ 教科書の例示の広告の言葉より、同じような言葉の繰り返し、反対の意味の命令言葉の並置、数を使った誇張表現などの言葉の使い方のくふうを見つけていくことができるようにする。(全児)
	4 ○ 手順を参考にして、読み手を引きつけるような広告の言葉をつくる。 5 ・ 広告の言葉づくり	(書) 手順を参考にして、広告の言葉をつくる。	・ 「どこが気に入ったのか」「何を伝えようとしているのか」という観点で、ノートにまとめ、それをもとに発表できるようにする。(A児・B児)
	6 ○ つくった広告の言葉をもとにして、言葉の使い方のくふうについて話し合う。 ・ 広告の言葉の使い方のくふう、おもしろさ	(話・聞) 言葉のおもしろさやくふうをわかりやすく話し、正確に聞く。	・ 人の心を引きつける広告の言葉の使い方を板書で確認できるようにする。(全児)
第三 次	7 ○ 「周防大島町」に関する言葉を集めて、話し合う。 ・ 周防大島町に関する言葉集め	(言) 周防大島町に関する言葉を集める。	・ 社会科や生活科、総合学習や特活などの学習を振り返り、周防大島町に関する言葉(自然、名所や旧跡、特産物など)を集めることができるようにする。(全児)
	8 ○ 「周防大島町」の広告の言葉をつくる。 9 ・ 周防大島町の広告の言葉づくり	(書) 手順を参考にして、周防大島町に関する広告の言葉をつくる。	・ 五・七・五のリズム、数字を使う、倒置、省略など、広告の言葉をつくるときのくふうを掲示し、参考にさせる。(全児)
	10 本時 ○ 「周防大島町」の広告の言葉を発表する。 ・ 広告の言葉の使い方のくふう、おもしろさ	(話) 広告の言葉について、言葉の使い方の面白さについて話し合う。 (書) 言葉の使い方をくふうして、広告の言葉をつくる。	・ 意欲を継続させるために、考えた言葉に絵を付けてポスターのようにしてもよいこととする。(C児)
11 ○ 「周防大島町」の広告の言葉集をつくる。 ・ 学習のまとめ	(言) 言葉の使い方やおもしろさに気づくことができる。	・ 完成した広告の言葉に絵をかいて、広告の言葉集にする。(A児・B児)	

6 本時案 (第三次 10 / 11)

(1) 主眼 つくった広告の言葉の言葉の使い方のおもしろさに、気づくことができる。

(2) 準備 「広告の言葉の作成の手順」を書いた紙(黒板掲示用)、
 広告の言葉を書いた発表用紙、ワークシート、振り返りカード

(3) 学習過程

前時の学習	周防大島町の広告の言葉をつくった。		
調	学習活動・内容	教師の働きかけ・リーダーの指示(L)	流れ
	つくった広告の言葉を発表して、気づいたことを伝え合おう。		
	1 自分がつくった広告の言葉の発表の準備をする。 ・周防大島町についての主張 ・題材を選んだ理由やくふしたところの確認	L 自分がつくったキャッチコピーを黒板にはって、発表のじゅんぴをしましょう。 ・「周防大島町」の最も主張したい事柄が、聞き手に伝わるかを意識しながら、発表の準備ができるようにする。	かんがえる
	2 広告の言葉を発表し、言葉の使い方のおもしろさについて話し合う。 ・五・七・五のリズム ・方言を使う ・数字を使う ・しゃれ ・聞き慣れないめずらしい言葉 ・倒置 ・省略 など	L 広告の言葉を発表したり、気づいたことを伝えたりしましょう。 ・広告の言葉のよさを体感できるように、全員で友達の広告の言葉を音読してから話し合いを始めるようにする。 ・広告の言葉の特色のある技法(学習の足跡)を掲示し、聞き手は友達の広告の言葉のよいところや変えた方がよいところなどを伝えることができるようにする。 (評価ア 発表)	/ つなぎあう
	3 話し合いで出された意見を参考に、広告の言葉を修正したり、仕上げたりする。 ・広告の言葉の仕上げ	L 広告の言葉を仕上げましょう。 ・友達の助言や友達の広告の言葉との比較などから、自分の広告の言葉を振り返り、自分がかふうをして書き直すことができるようにする。 (評価イ ワークシート)	/ まとめる
	4 本時のまとめをする。 ・学習の振り返り	L 今日の学習の振り返りをしましょう。 ・振り返りカードを用意し、自己評価ができるようにする。	/
	周防大島町の広告の言葉集をつくろう。		
	5 次時の学習課題を確認する。 ・次時の課題把握	L 新しい課題を読みましょう。	/ つかむ
次時の学習	周防大島町の広告の言葉集をつくる。		

(4) 評価

ア (話) : 広告の言葉の言葉の使い方の面白さに気づいている。

イ (書) : 言葉の使い方をくふうして、広告の言葉をつくっている。

「要点をまとめた言葉」「最も主張したい事柄の表現」

五・七・五のリズム
方言を使う
数字を使う
しゃれ
聞き慣れないめずらしい言葉
倒置
省略 など

第3・4学年 算数科学習指導案

指導者 教諭 堀田 浩一

・自分たちの手で進める（リーダー学習をする）ことで、学習に見通しがもてるようになり、学び合う楽しさを感じられるようにする。

1 単元名 3年 重さ (本時 2/9)

2 単元設定の理由

本学級の3年生は男子5名、女子2名の計7名である。算数の学習では、操作活動をしなが課題解決をすることを好む児童が多く、提示された課題に対しても意欲が大きい。しかし、既習学習を生かしたり、見通しを持って考えたりすることが苦手な児童もいる。学習後の振り返りでは、「難しかった。」「計算の仕方が分かって嬉しかった。」だけでなく、課題に対する感想が見られるようになってきた。ただ与えられた課題に取り組むのではなく、課題を自分の物として捉え、めあてを持って、取り組むことができるようになってきている。

O児	既習学習を生かして課題解決をしようとするが、自信を持って自分の意見を発表することができにくい。他者の考えにあまり関心がない。
K児	単位や相互関係について理解しにくく、自分の考えを絵や言葉で表しにくい。
S児	既習学習を生かすことができる。「かさ」の学習では普遍単位のよさに気づくことができた。
N児	「長さ」や「水のかさ」の学習で未習部分があり、生活経験も乏しいことから個別支援が必要。他者の考えにあまり関心がない。
N g児	意欲的に課題に取り組み、自分なりの方法で解決しようとする。自分の考えを絵や言葉で表現し、説明することができる。
Y児	課題解決のために見当を立てたり、見通しを持って取り組みにくい。友だちの意見をよく聞き、自分の意見との相違に気づくことができる。
Y d児	見通しを持って取り組もうとしており、自分の考えを絵や言葉で分かりやすく説明しようと気をつけている。

また、リーダー学習では、事前に全員が学習の流れを確認することで、自分たちの手で学習を、やっとなめられるようになってきた。つなぎ合いでは、いろいろな方法で自分の考えを表現し、考えを分類したりまとめたりすることに取り組むつつある。

本教材では、身近な物の重さ比べをして、重さを数で表したり計算したりしながら、重さの概念や測定の意味を理解することがねらいである。重さの単位や秤の目盛りのよみ方を知り、量感を身に付けて生活の中で生かせることもねらっている。見通しを持って課題解決に取り組むことで、自分の考えをしっかりと持つことができ「つなぎ合い（学び合い）ができる児童」の育成に有効であると思われる。

そこで指導に当たっては次の点に留意したい。

- ・2～3人のグループで操作活動をさせ、互いに思いや意見を伝え合いながら学習を進めることができるようにする。【伝え合う力を高める場の充実】
- ・全員が、「今日の学習」シートを確認することで、学習の始めに流れを知り、意欲を持って自分たちの手で学習できるようにする。【学び方の定着】
- ・学習用具やふるさとの特産物など児童の身近な物で課題作りをしたり、身の回りの物の重さ比べや重さ当てゲームをしたりすることで、生活の中で生かそうとする意欲を持てるようにする。【学習素材の工夫】
- ・単元の中で「ずらし」をして両間接指導を作ることで、個別指導などでつまずきのある児童にも重さの意味などをしっかりと理解できるようにする。

3 目標

- 身の回りのものの重さを、いろいろな方法で比べたり量ったりしようとする。
- 重さも長さや水のかさと同じように、一定の単位のいくつ分で表せると気づくことができる。
- 秤の目盛りのよみ方を知り、秤で重さを量ることができる。
- 重さの保存性や加法性を知り、重さの量感を持つことができる。
- 重さの単位「g」「kg」を知り、重さの意味を理解できる。

4 評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	・身の回りにあるいろいろなものの重さに興味を持ち、その重さを予想したり、適切な単位や器具を用いて重さを量ったりしようとしている。
数学的な考え方	・重さも長さやかさと同じように、単位のいくつ分で表すことができると気づく。 ・重さの保存性や加法性に気づく。
表現・処理	・ものの重さを秤を使って測定することができ、「g」「kg」の単位を使って表すことができる。 ・重さのたし算やひき算ができる。
知識・理解	・重さの単位「g」「kg」を知り、意味を理解している。 ・1kgの重さを調べるなどの活動を通して、重さについての量感を持つことができる。

5 指導計画及び評価（総時数 9時間）

	学習活動・内容	評価の視点	配慮を要する児童への支援
第一次	1 ○身の回りのいろいろな物の重さ比べをする。 ・直接比較 ・間接比較	(関)身の回りのいろいろなものの重さに興味を持ち、重さ比べをしようとする。 (考)直接比較と間接比較のそれぞれの良さに気づく。	・意欲的に重さ比べができるように順番当てクイズをする。(O児、N児) ・間接比較の道具に充分慣れさせて重さ調べをする。 (N児、Y児)
	2 ○任意単位や普遍単位のいくつ分で重さ比べをし、重さを「g」で表す。 ・○○のいくつ分 ・△g	(考)長さやかさのように、重さも任意単位や普遍単位のいくつ分で表せると気づく。 (知)重さの単位「g」を知り、表し方を理解する。	・「どれだけ重いか」を数字で表しやすいうように、書込できるプリントを用意する。 (N児、Y児) ・2種類以上の任意単位をたくさん用意することで、一人ひとりが十分に操作活動できるようにする。 (N児、Y児)
第二次	3 ○秤を使って、重さを量り、「g」「kg」で表す。 ・秤のよみ方 ・1kg = 1000g ・○kg □g	(表)秤の目盛りを正しくよみ、ものの重さを測定できる。 (知)重さの単位「kg」を知り、表し方を理解する。	・小さい目盛りに1gを書き、針が動いた部分に色を塗る。 (K児、N児、Y児)
	5 ○身の回りのいろいろなものの重さ調べをする。 ・1kgの量感	(関)いろいろなものを手に持ってその重さを予想し、秤を使って確かめようとしている。 (知)1kgを作ったり、重さ調べをしたりして、重さの量感を持つことができる。	・重さの見当を立て、友達同士で重さクイズを出し合う。 (O児、K児、N児、Y児) ・グループで1kg作りの競争をする。 (O児、N児、S児)
6 ○身の回りのいろいろな秤や重さの単位を探す。	(関)身の回りからいろいろな秤や重さの単位を探そうとしている。		
第三次	7 ○重さのたし算やひき算をする。 ・○g + □g = △g ・□kg △g - △g = □kg	(考)重さの保存性と加法性に気づく。 (知)重さの加法や減法ができる。	・数字だけの計算にならないように秤を使って確かめる。 (N児、Y児)
第四次	8 ○練習問題「たしかめよう」「ふりかえろう」をする。	(知)重さについて理解を深める。	・問題にクイズを加える。(K児)

- ・複式・少人数学級の特徴を生かし、一人ひとりが具体的な操作活動をすることで、進んで課題に向き合う意欲がもてるようにする。

1 単元名 4年 分数 (本時 1 / 9)

2 単元設定の理由

本学級の4年生は男子3名、女子1名の計4名である。学習の流れをパターン化(3段階の学習方法)したことで、先が見通せるようになり、自分たちで学習を進めようとする意識が高まってきた。リーダーの指示に合わせるだけでなく、「次は発表ですか。」などフォロワーも一緒に学習を進めることができつつある。算数では、四則計算など基礎学力がだいたい定着しており、既習学習を生かしていろいろな考え方で課題解決しようとするができるようになってきている。また、学習の振り返りをする中で、友だちの思いや考えを理解しよう、良いところを学んでいこうとする意欲が見られるようになった。

○児	既習学習を生かして、いろいろな考え方で課題解決しようとする。基本的な数や量の概念が育っており、数学的な考え方ができる。自分の考え方について見直しやふり返りができにくい。
K児	抽象的に考えるよりも、具体物を操作しながら考えることを好む。視覚的に捉えられる図形などの特徴は、よく理解できる。
S児	数直線や絵を描きながら課題解決をしようとする。計算の仕方、筆算の手順など順序立てて理解することができる。
Y児	操作活動では大雑把なことから間違いやすく、作図などでの正確性が低い。既習学習を生かすことができるが、友だちの意見にあまり関心がなく、多様な考え方ができにくい。

本教材では、端数部分や1より小さい量の表し方を考えることで、整数や小数では表すことのできない量を表せる分数表示のよさに気づき、分数の意味や表し方を理解することがねらいである。分数は、□等分の考え方で日常生活によく使われる量の表現方法でなので、本単元の課題を自分の物として強く意識できると思う。身近な課題に意欲的に取り組む学習を通して、「生き生きと取り組む子どもたち」を育てていきたい。

そこで指導に当たっては次の点に留意したい。

- ・リーダー役が今日の学習内容を詳しく知ることで、全員で安心して学習を進めることができるようにする。【学び方の定着】

- ・生活経験の中から学習材を設定することで、課題を自分の物として意識して思いや考えを伝え合いたいという意欲が持てるようにする。

【学習素材の工夫・伝え合う力を高める場の充実】

- ・テープや水などいろいろな具体物を操作することで、分数の意味や量を理解できるようにする。
- ・単元の中で「ずらし」をして両間接指導を作ることで、つまずきのある児童などに個別指導で分数の意味などをしっかり理解させる。

3 目 標

- 1より小さい量の大きさを、いろいろな方法で表そうとすることができる。
- 数直線を用いて分数の大小関係や、真分数、仮分数、帯分数の表し方について考えることができる。
- 1より小さい量の大きさを分数で表すことができる。
- 分数、分母、分子、真分数、仮分数、帯分数などの用語を知り、分数の意味を理解できる。

4 評価規準

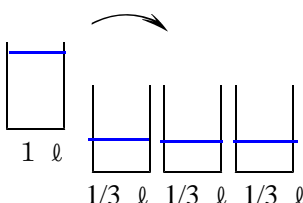
観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	・等分した部分や端数部分の大きさを分数で表そうとする。
数学的な考え方	・分数は、単位分数のいくつ分で表すことに気づき、それをもとに大小関係を考えることができる。
表現・処理	・1より小さい量を分数（真分数、仮分数、帯分数）で表すことができる。
知識・理解	・真分数、仮分数、帯分数の意味が理解できる。 ・分母が10の分数と小数との関係が理解できる。

5 指導計画及び評価（総時数 9時間）

	学習活動・内容	評価の視点	配慮を要する児童への支援		
第一次	1 本時 2 3	○同じ量ずつ分けて1より小さい量やはしたの大きさの表し方を考え、分数の意味を理解する。 ・○等分した1個分は、○分の一、一/○ ○テープの長さや水のかさについて、△等分した□個分を分数でよんだり、表したりする。 ・△等分した□個分は、△分の□、□/△ ・分数、分母、分子	(関)分けた大きさやはしたの大きさについて、いろいろな方法で表そうとする。 (表)基準量の単位に気をつけ、1より小さい量を分数で表すことができる。 (知)分数の意味やよみ方、かき方を理解する。 (考)分数は、単位分数のいくつ分で表せることに気づいている。 (表)長さや水のかさを分数でよんだり、表したりできる。 (知)「分数」「分母」「分子」の用語と意味を理解する。	・一人ひとりが十分に操作活動ができるように1人ずつ具体物を用意する。 (K児、S児) ・はしたの大きさの表し方のヒントカードを用意する。 (K児) ・基準量「1ℓ」「1m」を意識しながら操作できるように1ℓ升や1mテープを用意する。 (O児、K児、Y児)	
	第二次	4 5	○基準量1より大きい分数の表し方を考える。 ・1/□mの△個分は、△/□m ・○/○m = 1m ○いろいろな分数の表し方を考える。 ・□/○m（仮分数）は、1mと△/○m（真分数）、1△/○m	(考)単位分数をもとにして、1をこえる分数の表し方を考えている。 (知)「真分数」「仮分数」の用語と意味を理解する。 (考)1をこえる分数を、整数部分と分数部分に分けた、表し方について考えている。 (表)1をこえる分数を、帯分数や仮分数で表すことができる。 (知)「帯分数」の用語と意味を理解する。	・基準量1mより長いテープを用意し、操作活動ができるようにする。(K児、S児) ・単位分数を動かして、大きい分数の表し方を確かめる。 (K児) ・図や絵で基準量「1ℓ」「1m」を確認して、真分数、仮分数、帯分数を理解させる。 (K児) ・既習事項の「はしたの大きさの表し方」を想起させる。 (K児、S児)
		第三次	6 7	○分数の大きさについて考える。 ・数直線上の真分数、仮分数、帯分数 ・大小比較 ・□/○（仮分数） = 1△/○（帯分数）、または3（整数） ○分母が10の分数と小数の関係について考える。 ・1/10の位（=小数第一位）	(考)数直線をもとに、分数のしくみや大小関係を調べる。 (表)分数を仮分数、真分数、帯分数などで表すことができる。 (知)同分母分数の大小比較の仕方を理解する。 (関)分数のものさしを作って、いろいろなものを測ろうとしている。 (知)小数第一位の小数は、分母が10の分数で表せることを理解する。
第四次	8 9		○練習問題「たしかめよう」「ふりかえろう」をする。	(知)分数について理解を深める。 ・問題にクイズを加える。 (O児、K児)	

6 4年 本時案 (第一次 1/9)

- (1) 主眼 1ℓを等しい量に分けるを通して1より小さい量の表し方について考え、分数の表し方が分かる。
 (2) 準備 操作活動用のジュースと容器
 (3) 学習過程

前時の学習	前単元のまとめをした。		
	学習活動・内容	リーダーの指示	教師の働きかけ
/	1 本時の学習課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 1ℓのジュースを3人で分けると、1人分はどれだけでしょう。 </div>	L今日の課題を読んで写しましょう。	Oけんかをしないようにジュースを等分しよう。
	2 1ℓのジュースを3等分して、1人分の量の表し方を考える。 評価ア ・等しい量に分ける。 	L1ℓのジュースをみんな等しい量になるよう3つに分けましょう。 L1人分の量の表し方を考えましょう。 Lホワイトボードに書きましょう。	・一人ひとりにジュースと容器を持たせ、操作活動を充実させる。 ・1つずつ学習活動を進めることで、全員が課題解決に取り組めるようにする。
/	3 3等分の仕方と、1人分の量の表し方を発表する。 ・同じ量ずつ3つに分ける。 「3等分」 ・3等分した1つ分の量 「3分の1」「1/3」	L分け方と1人分の量の表し方を発表しましょう。	・台の上で操作しながら説明させる。 ・1人分の量を言葉と絵で説明させることで、「等分」「分数」の意味理解を深める。
	4 練習問題をする。 評価イ ・△等分 ・1/□	L練習問題をして、答え合わせをしましょう。 L今日の学習の振り返りをしましょう。	・操作しながら考えさせる。
次時の学習	1より小さい量の大きさやはしたの大きさを分数で表す。		

(4) 評価

- ア (考) 1より小さい量の表し方を考えていたか。
 イ (知) 等分と分数の意味やよみ方、書き方を理解できたか。